

Ⅲ 総合施設モデル事業の実施状況 (子育て支援事業の実施状況)

1 特別保育の実施状況 (幼・保連携型及び保育所実施型のみ記入)

→ 調査結果別紙P17参照

- ①特定保育 対象児童数 (人)
- ②一時保育 利用児童数 (1日あたり 人)

2 地域子育て支援の実施状況 (幼・保連携型及び保育所実施型のみ記入)

→ 調査結果別紙P17参照

①子育て相談

- ア 地域子育て支援センター事業を実施
- イ その他
- ・実施状況
 - ・対象者
 - ・担当職員 (資格の有無についても記載してください。)
 - ・専用スペースの有無
 - ・利用者数

②親子の集いの場の提供

- ア つどいの広場事業を実施
- イ その他
- ・実施状況
 - ・対象者
 - ・担当職員 (資格の有無についても記載ください)
 - ・専用スペースの有無
 - ・利用者数

3 親子登園、子育て支援等の実施状況（幼稚園実施型のみ記入）

→ 調査結果別紙P18参照

①親子登園について

ア) 実施の有無

イ) 実施している場合の内容等

- ・ 内容
- ・ 開催状況
- ・ 対象者
- ・ 担当職員（資格の有無についても記載してください。）
- ・ 専用スペースの有無
- ・ 利用者数

②親子登園以外の子育て支援について

（子育て相談、子育てサークル等の支援、園庭・園舎の開放、子育て情報の提供など）

ア) 実施の有無

イ) 実施している場合の内容等

- ・ 内容
- ・ 開催状況
- ・ 製作についての親子参加型の集会と講演会を実施
- ・ 対象者
- ・ 担当職員（資格の有無についても記載してください。）
- ・ 専用スペースの有無
- ・ 利用者数

4 成果と課題

総合施設モデル事業として上記の子育て支援事業等を実施してみて、現時点での成果と課題について記入願います。

[成果等]

- ・ 総合施設モデル園指定以前から子育て支援事業を行っており、多くの子育て中の親子との触れ合いにより子育て不安の解消に役立っていると確信している【3】
- ・ 親子が幼稚園で一緒に制作活動をし、友達同士で比べながら製作を進めることができ、制作の楽しさを体験できたとの声がきかれた。制作に興味のない家族もあったとのことで、これから多種多様な方面での集会や講演会を計画【6】
- ・ 幼稚園は社会的使命として子育て支援機関の一つであることを再認識【11】
- ・ 園児からみれば、遊びの刺激と交流ができる【19】
- ・ 支援センターの催す行事に参加できる【19】
- ・ 利用する親子に、遊び、生活に必要な情報を提供することにより、入園するまでのよい育児ができ、円滑に園生活に入ることができる【19】
- ・ 親の育児の悩みストレスに対応できる【19】
- ・ 職員側から見れば、園内研修で園児の姿、支援センター利用者の姿を出し合う中で、未就学児の悩み・ニーズの共有ができ、日々の保育にも役立つ【19】
- ・ 職員の保育資質の向上【29】
- ・ 職員間の時間や施設の有効か通用【29】
- ・ 子どもの活動の幅が広がった【29】
- ・ 地域のセンターに対する好感度アップ【29】
- ・ 満1歳からのサークルを実施することで、子育てをする集団の場が早期から求められていることを再認識【30】
- ・ 「異世代や異年齢仲間集団の再構築」や園児だけでなく保護者も一緒に育ち合うことを目的とする「世間づくり」を実施してきた。総合施設になってからの実施期間は短いですが、多大な成果があった【34】

[課題等]

- ・ 行政がどのように当施設を支援するのか、また地域ネットワークの構築等をどのように進めるのか、1施設だけでは進まないため、地域行政等の子育て支援体制の再構築等が必要【7】
- ・ 相談を受ける立場の研修の向上【19】
- ・ 子育て支援センターになっていないので、職員が配置されない【29】
- ・ ボランティアへの対応（保険、交通費等）【29】
- ・ 行政との連携が不可欠【33】